

Events Schedule

今後の催し物 *日程・内容などが変更になることがあります。

まちが博物館 ～二葉館を基点に歩いてみよう～
シリーズその1 鍋屋町界限
7/12 (火) ～8/14 (日) *

「まちの記憶」を呼び起こす地域の古い写真などを展示すると同時に、文化のみち内の特徴的な一地区のエリアマップ（写真またはイラスト・説明付き）を作成し、期間中配布します。

会場：東区旧鍋屋町界限/2階 展示室8

文化のみち大正浪漫コンサート 第2弾
中秋の名月の日、マンドリンを楽しむ
9/18 (日) 午後2時～3時

・「マンドリンの音の博物館」館長・南谷博一氏によるマンドリン演奏と、楽器にまつわるお話。
会場：1階大広間

Information

お知らせ

●「歩こう！文化のみち」ボランティアスタッフ大募集！

11月3日に開催される「歩こう！文化のみち」で、お手伝いして下さる方を募集しています。やっていただくことは、スタンプラリーポイントの受付や会場整理など。どうぞふるってご応募ください。

申込・問合せ先：東区役所まちづくり推進室
TEL 052-934-1123 FAX 052-935-5866
E-mail a9341120@higashi.city.nagoya.lg.jp

●東区文化のみちスケッチ展のご案内

8/31～9/4 1階集会室で、「東区文化のみちスケッチ展」が開かれます（東区文化のみちガイドボランティアの会・文化のみち二葉館共催）。どうぞ、足をお運び下さい。

●俳句で、文化のみちを表現してみませんか

東区まちそだての会では、「歩こう！文化のみち」関連企画として、俳句・川柳を募集します。あなたが素敵だな、と思う文化のみちを、詠ってください。

応募期間 10/1～11/3（応募用紙は、期間中文化のみち二葉館情報コーナーに。11/3は総合受付、榎木倶楽部等でも配布いたします。）

「市民を信頼した展示が素晴らしいと思いました」という感想を書いてくださった来館者の方がいらっしゃいます。貞奴や桃介ゆかりの品々がケース越しではなく見られる、また同人誌などを手にとって読むことができる展示を指してのことだと思います。文学や歴史をより身近に感じてほしい、という想いから実施しているこうした方法がいつまでも続けられるよう、どうか皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

貞奴と花子展
～欧州に羽ばたいた二人の女性たち～
10/18 (火) ～12/18 (日)

1900年のパリ万博で注目を集め、アンドレ・ジイドがラブレターにも等しいほどのファンレターを書き送ったという貞奴。そして、1902年に渡欧。その演技が大評判となりオーギュスト・ロダンのモデルとなった花子。

20世紀の初頭に果敢に海外に進出し、巨匠たちをも魅了した二人の女性の生き様を紹介します。

会場：展示室1 その他、文化のみち内で関連企画あり

文化のみち写真展
～あなただけの文化のみちを見つけてください～
応募期間 11/1～11/30 展示期間 1/17～2/26

文化のみちのフォトコンテストを行ない、優秀作品を館内に展示予定。詳しくはホームページ上で発表。

●貸室利用のご案内

1階集会室・2階和室1・2を3時間600円で貸し出しています。会合、趣味の会などにどうぞご利用ください。仮予約、お問い合わせは、二葉館事務室まで。

●「ものバス」に乗ってみよう

愛地球博期間中（～9/25）の土・日・祝、名古屋駅から名古屋城、徳川園、文化のみち二葉館、ノリタケの森、産業技術記念館などを結ぶ「ものバス」が1時間に1本運行しています。（名古屋駅バスターミナルレモンホーム0番のりばより）どうぞご利用ください。

！ありがとうございました！

館の運営にあたっては、様々な方の知恵と力をお借りしています。毎週木・土に館内を案内して下さっているガイドボランティアの方々、書庫の整理のお手伝いをして下さっている文学ボランティアさん。6月の衣替えの時には、アトリエ「るびーぶる」のスタッフの皆様。7月企画の際には「白壁・主税・榎木」の町並み保存地区の住環境を考える会、東区まちそだての会、名古屋陶磁器会館、地元の方々にもご協力をいただきました。一人ひとりの皆様に、心より感謝申し上げます。

「ふたば便り」 創刊号
発行日 2005年8月8日
発行：文化のみち二葉館【名古屋市旧川上貞奴邸】
〒461-0014 名古屋市東区榎木町3-23
TEL&FAX 052-936-3836
URL <http://www.futabakan.city.nagoya.jp>

ふたば便り

創刊号
2005年
8月8日発行

このたび、文化のみち二葉館【名古屋市旧川上貞奴邸】では、お客様・ボランティア・スタッフなど、二葉館にかかわる皆様の声と声を結ぶニュースレター『ふたば便り』を発行することになりました。ご意見ご提案など、どうぞたくさんのお声をお寄せください。誕生したばかりの二葉館とニュースレター。どちらもまだまだ足取りはおぼつきませんが、皆様のお力を借りながら少しずつ育ててゆきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

Event Report

石田音人「玲琴」をかなでる。～大正浪漫コンサート初夏～

懐かしい響きに、歌声誘われて

「七つの子」「宵待草」「浜辺のうた」等々。大正時代に作られた楽曲の演奏に合わせて、誰からともなく歌声が生まれ、やがて大広間いっぱいにつめかけたお客様のあいだに広がっていきました。5月22日に開催された、石田音人さんによる玲琴コンサートでのできごとです。

玲琴とは、大正時代に考案され昭和初期まで盛んに使われたものの、その後姿を消した「幻の楽器」。音人さんが、資料を手がかりに3本の玲琴を復元し、今回はじめて公開されたものです。

低く、深みのある音色でかなでられる、数々の懐かしい曲。今回は年配のお客様が多かったのですが、このような美しい日本の曲を若者や子どもたちにも伝えてゆきたい、と強く思った初夏のひとつときとなりました。（春）



モボを思わせるスタイルで演奏する石田音人さん。（上下写真提供 中山正秋）



左が大玲琴、右は小胡弓。このほか全部で5種類の楽器が、解説を交えて演奏された。

これまでの催し物

- 2月8日・ 開館
- 3月20日・ 開館記念講演会 その1
・ (於カトリック主税町教会)
- 3月27日・ 開館記念講演会 その2
・ (於榎木倶楽部)
- 5月14日・ ハープアンサンブル&ハンドベルクワイア
・ コンサート
- 5月22日・ 石田音人「玲琴」をかなでる
- 5月25日～6月5日・ 春日井建の軌跡
・ (於名古屋市民ギャラリー矢田)
- 6月2日・ 城山三郎講演会&交流会
・ (於東急ホテル)
- 6月16～26日・ 全国同人雑誌展

文化のみち物語 第1回

白壁アカデミア・代表世話人 井澤知旦

名古屋市は、名古屋城から昭和初期の帝冠様式を持つ市役所・県庁、現存する最古の控訴院である旧名古屋控訴院・地方裁判所（現市政資料館）、白壁地区、尾張徳川家菩提寺の建中寺、徳川園まで、直線距離で東西約3kmのエリアを「文化のみち」として位置づけ、武家文化および近代化の歴史遺産の宝庫として、それにふさわしい環境整備や施設整備を進めています。

そのなかの白壁地区は、江戸時代の町割に明治後期から昭和初期に建てられた財界人（名古屋の近代産業の礎を築いた人々）の邸宅等が建築されました。棧瓦がのり、白漆喰の小壁と堅羽目板の腰、切石貼の基礎を持つ門扉、それらの連なりと見越しの樹木が白壁地区の特徴ある景観を形成しています。地区全体が独自の雰囲気や漂わせ、文化のみちの核となるエリアとなっています。

名古屋は第二次世界大戦で38回の空襲を受け、当時の市街地の半数以上の3,850haが焦土と化しました。名古屋城や熱田神宮を始め、歴史的資産の多くが失われてしまいましたが、白壁地区は残りました。歴史をつなぐ意味で非常に貴重なエリアです。

二葉館 文学の風

郷土ゆかりの文学 その新しい拠点として

文化のみち二葉館は、貞奴と桃介が暮らした当時の雰囲気や今に伝えるとともに、名古屋を中心とする郷土にゆかりのある文学者の情報収集・発信の拠点施設としての機能も果たしています。

現在、作家・城山三郎や歌人・春日井建（故人）など、地元出身の文学者からご寄贈いただいた資料・数万点を書庫に収蔵し、文学ボランティアの方々の協力で整理を進めています。他にも、これまでに講演会や全国同人誌展の開催を行うなど、文学事業を進めています。

～ 書庫棟より ～

「ささやかな宿題」 杉森多佳子

文学ボランティアの活動時に、「春日井建をご存じでしたか」という質問をすることがある。知らなかった人には、簡単に歌人としての経歴などを説明し、少し興味をもった人には、人柄や作品にまつわるエピソードを紹介したりする。

それが、故春日井建に教えをうけた私に課せられたささやかな「宿題」だと思ふから。寄贈された春日井建の蔵書整理のボランティアをとおして、新たな春日井建ファンをふやしたいと思っている。



文化のみちの丁度中間点、白壁地区と隣接する場所に旧川上貞奴邸が名古屋市によって移築・復元され、平成17年2月8日にオープンしました。「文化のみち二葉館」という愛称が公募により付けられました。この「二葉館」が整備されることによって、文化のみちの内容に厚みを与えています。白壁地区を漫然と散策することから「二葉館を見てから白壁地区を歩こう」と来場する目的が明確になったと言うこともできます。

「文化のみち二葉館」は国際女優川上貞奴と電力王福沢桃介の人となりや当時の文化を偲ぶにとどまらず、市民の財産である文化のみち全体や郷土文学を紹介し、名古屋の文化を次世代に継承していく拠点として、市民とともに育てていけたらと考えています。

城山三郎講演会 ～文化のみち二葉館開館記念～

当日6月2日は、朝から雨模様。午後からの講演会と交流会を前に城山先生は二葉館を見学された。相手をしっかり見つめて説明を聞かれ、話される物腰に、凛とした作家のオーラを感じ圧倒された。

講演会の演題は「気骨ということ」。前半は、若き日七つのボタンに憧れて海軍に入った経験から、戦争のことをきちんと書いておきたい、そして組織と人間のことをテーマに書いていきたいということ、その中で「組織に入ると人間は変わる」と話されたのが印象的だった。後半は亡くなられた奥様のことを微笑ましく語られた。

その後の城山先生が主催してくださった「文学ボランティア交流会」は、和やかな雰囲気で終始し、ボランティアの方たちや私たちに「本を分類整理するのは大変でしょう。ありがとう。」と率直に言われた言葉にうれしくなり、記念すべき一日となった。（上中満喜）



交流会のあいまに。

Voices 皆様のこえ

*皆様のご意見、ご提案、ご批判などをお待ちしています。

東区文化のみちガイドボランティアの会代表 大西一郎

「文化のみち二葉館」は、私達の会員が考えた名称が公募で選ばれ、命名されることになった東区の文化施設です。電力王・福沢桃介と、国際女優・川上貞奴が大正期ここに居住し、ともに素晴らしい活動をしました。

私達はこの館の定時ガイドをするとともに、個別に依頼を受けた方々にも随時案内をし、多くの方々に親しんでいただいています。

「文化のみち」は東区全部のみちです。そして素晴らしいところです。皆さん！この二葉館等のことをポケットに入れず、私達の会で多くの人々に伝えていきませんか。ガイドボランティアをやってみましょう！

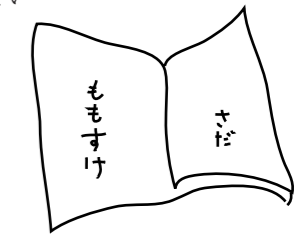
定時ガイド：毎週木・土 11:00～/13:30～

ガイドの申込み&問合せ：大西一郎 052-773-5970

指定管理者・アクティオ㈱ 鎌田良夫

文化のみち二葉館は、平成15年9月より施行された「指定管理者制度」で運営されています。これは、自治体の設置する公共施設を、民間事業者に全面的に委託して管理・運営を行う新しいシステムで、名古屋市の文化施設では初のケースです。

新世紀の文化拠点にふさわしく、民間活力をいかして活発な情報の収集と発信を行うとともに、来館者の皆様、心地よいひと時を味わっていただけるよう、スタッフ一同「おもてなし」の心を大切に、日々努力して参ります。



Books Information 関連書籍リスト

■川上貞奴関連

「人物日本の女性史9<芸の道ひとすじに>」（集英社1977）
「図説人物日本の女性史」11<花開く女流芸術>川上貞奴 尾崎秀樹（小学館1980）
「マダム貞奴」杉本苑子著（集英社文庫1980）
「川上貞奴 物語と史跡をたずねて」童門冬二著（成美堂出版1984）
「貞奴炎の生涯」佐竹申伍著（光風社出版1984）
「実録・春の波濤」童門冬二ほか著（ぱる出版1984）
「実録 川上貞奴 世界を翔けた炎の女」江崎 惇著（新人物往来社1985）
「新編近代美人伝 上」長谷川時雨著（岩波文庫1985）
「女優貞奴」山口玲子著（朝日文庫1993）
「MADAME SADAYAKKO」Lesley Downer（Headline Book Publishing 2003）

■川上音二郎関連

「異国遍路旅芸人始末書」宮岡謙二著（中公文庫1978）
「自伝音二郎・貞奴」川上音二郎、貞奴著（三一書房1984）
「川上音二郎 上、下」村松梢風著（潮文庫1985）
「川上音二郎の生涯」井上 精三著（葦書房1985）
「川上音二郎・貞奴～新聞にみる人物像～」白川宣力著（雄松堂出版1985）
「日本現代演劇史 明治・大正編」大笹吉雄著（白水社1985）
「川上音二郎～近代劇・破天荒な夜明け～」松永伍一著（朝日選書1988）
「博多川上音二郎」江頭 光 著（西日本新聞社1996）
「甦るオッペケペー 1900年パリ万博の川上一座」（東芝EMI 1997）

■福沢桃介関連

「桃介は斯くの如し」福沢桃介著（星文館1913）
「福沢桃介翁伝」大西理平著（福沢桃介翁伝記編纂所1939）
「激流の人 電力王福沢桃介の生涯」矢田弥八著（光風社出版1968）
「福沢桃介翁生誕百周年記念」電通名古屋支社企画制作（福沢桃介翁生誕100周年記念会1968）
「桃介・独立のすすめ」小島直記著（新評社1973）
「富強物語」杉浦翠子著（藤浪会1980）
「野生のひとびと」城山三郎著（文春文庫 1981）
「福沢桃介の人間学」福沢桃介著（五月書房1984）
「電力王福沢桃介」堀 和久著（ぱる出版1984）
「経営の鬼才 福沢桃介」宮寺敏雄著（五月書房1984）
「冥府回廊 上、下」杉本苑子著（NHK出版1984）
「福沢桃介の経営学」福沢桃介著（五月書房1985）
「木曾谷の桃介橋」鈴木静夫著（NTT出版1994）
「日本の電力王福沢桃介」長沢士朗著（でんきの科学館 1994）
「創意に生きる～中京財界史～」城山三郎著（文春文庫 1994）
「鬼才福沢桃介の生涯」浅利佳一郎著（NHK出版2000）
「日本創業者列伝」加来耕三著（人物文庫2000）
「電力人物誌」満田孝著（都市出版2002）
「まかり通る上、下」小島直記著（東洋経済新報社2003）

※もっと貞奴や桃介のことを知りたい、という方々のために、関連書籍、CDをピックアップしてみました。絶版になっているものも多いと思いますが、図書館などで借りて夏休みなどにぜひ読んでみてください。なおこのリスト作成にあたっては、文学ボランティア・稲葉誠也さん発行の「貞奴通信No.1」を参考にさせていただきました。